

平成 29 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	58		学校名	竜ヶ崎南高等学校				課程	全日制			学校長名	塚本敏雄			
教頭名	磯山佳美								事務長名	吉田徹也						
教職員数	教諭	19	養護教諭・養護助教諭	1	常勤講師	7	非常勤講師	4	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	2	技術職員等	5	計	42
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	64	54	44	46	69	31			177	131	9				

2 目指す学校像

「すべての教育活動は生徒のために」を基本理念として、一人一人の生徒を大切にしながら、地域や社会の要望に応えられる、誠実で自主的精神に充ちた、創造性豊かな「将来社会に貢献できる人材」を育成する学校。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	中学校段階の基礎学力が不十分である。指示された学習にはよく取り組むが、より高い学習課題に積極的に取り組もうとする態度には不十分が見られる。	基礎的な知識の定着を図り、それらを活用して学習を進めることができるよう、主体的な学習態度を身に付けさせる工夫をする。多様な学力の生徒に対応できる授業形態を工夫する。
進路指導	就職指導などの学校の指導によく従い努力できるが、自分の将来について中長期的な展望を持ち主体的に行動することが少ない。	全教科・全領域を通じ、体験活動等を取り入れつつ、自己の生き方・在り方、キャリア形成について考えを深めさせる。
生徒指導	基本的生活習慣の定着、服装容儀という点では大きな改善が見られる。特別指導の件数についても、平成 28 年度は前年度から半減し、ほとんどは軽微なものとなっている。	保護者とどのように連携をとって指導していくかを考える。地域社会や関係機関と連携しつつ指導を充実させる。
特別活動	小規模校であり、部活動の加入率が低いことから、対外試合等で実績をあげることが難しい。生徒会本部の活動への取組は良い。学校行事への取組はよくなりつつある。	生徒の自発的・自主的活動をどう支援していくか、部活動の活性化をどう図っていくかを学校全体で考える。

4 中期的目標

- 1 自発的学習の習慣化を図り、学力の向上に努める。
- 2 一人一人の能力適性に応じた進路指導を推進し、ひとりひとりの個性に応じた進路実現を図る。
- 3 規則正しい生活の実践をとおして、自立的生活習慣の確立をめざす。
- 4 体育活動や文化活動を奨励し、強健な心身と豊かな情操の育成に努める。
- 5 勤労や創造の喜びを体験させ、奉仕の心と望ましい勤労観の育成に努める。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 生徒一人一人が主体的に学習できる指導方法の工夫・改善を進め、基礎学力の向上を図る。	①落ち着いた授業環境（体罰等に頼らない指導）の成立を目指し、自発的・主体的に学習に取り組む態度を育む授業の進め方や指導方法・評価方法を研究する。 ②基礎学力不足を補うための学び直しの教材を授業に取り入れながら、学力差のある個々の生徒に対応できる授業の在り方を研究する。
2 キャリア教育の充実と進路先の開拓を推進し、全ての生徒の進路決定を図る。	③人生や社会を見つめる態度を養い、生徒一人一人の興味や適性に応じた進路選択を支援し、卒業予定者全員の進路決定を目指す。
3 基本的生活習慣を身に付けさせる。	④制服をきちんと着こなし、身だしなみの大切さを学ばせる。 挨拶の励行を徹底させ、社会に出たときに必要となる人としてのマナーを学ばせる。 社会人として信頼されるために、時間を守って生活できる習慣を身に付けさせる。 環境美化に努める習慣を身に付けさせる。 いじめのない環境を整え、他人を思いやる精神を学ばせる。
4 生徒会を中心とした学校行事や部活動への参加を奨励し、特別活動の充実を図る。	⑤部活動加入率向上を図り、強健な心身と情操の育成を目指す。 ⑥生徒による自主的活動の尊重と学校のより一層の活性化を図る。
5 生活体験や社会体験を通して、社会の変化に適切に対応できる力を育成する。	⑦学校での環境美化や地域社会での体験活動を奨励し、道徳的実践力の育成を図り、社会で生きる力を育む。
6 地域への働きかけを充実させることで信頼を得て、地域に支えられる学校、地域を支える人材を育てる学校を目指す。	⑧保護者との連絡・連携に努め、教育活動への理解を求める。 ⑨地域社会や近隣市町村の異校種の学校との連携に努め、地域になくてはならない学校作りを目指す。